

「いいだ未来デザイン 2028 中期計画 (案)」に対してお寄せいただいたご意見と市の考え方

パブリックコメントでお寄せいただいたご意見	市の考え方
<p>【指摘項目】 学びあいにより生きる力と文化を育むまち 基本的方向 3-② 外国語教育の推進について</p> <p>中期計画によると、2028年の人口は、96,000人と想定されており、交流人口は156,000人となっています。 人口は毎年1,000名以上減少している実態から91,000人位と見る方が実態に近いと思いますし、交流人口に至ってはどんな根拠で算定したのか大いに疑問です。 交流人口の中心は外国人旅行者を見込んでいると思います。 2028年にリニアが開通しているか不確実な情勢ですが、開通していれば外国人旅行者の大幅な増加が期待できます。 豊かな自然、各種体験観光と条件は揃っていますが、このままでは大幅な増加は期待できません。 外国人観光客が魅力を感じる土壌の醸成が必要だと思います。 「英語のまち・飯田」を提案します。 ＊観光施設の職員、桜守り、古墳説明員が英語でガイドできる。 ＊土産店へ寄っても英語が通じる。 ＊道で行き会った子供たちが英語で話しかけてくれる。 ＊保育園から高校生まで特別な英語教育により、英語力が格段にアップする。 ＊飯田の小中学校へ入学させると英語力がアップするという事で、転入者が増える。 ＊英語教師は、フィリピン人を中心に50名くらい雇用する。 ＊英語教師は、平日の昼間は学校で英語教育。夜間と土日は一般人対象に英語塾を開催。 ＊経費（賃金および宿舍等）は約3億円必要。 ＊ふるさと納税寄付金で賄う。 ＊中国からの観光客も大幅に増加すると思いますので、2か国語を話せる中国帰国子女を英語教育を含め活用するとよいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いいだ未来デザイン 2028 の基本構想となる未来ビジョンと人口ビジョンは12年間（2017～2028年度）を期間として策定しています。国立社会保障人口問題研究所の推計によると2045年の当市の人口は約75,000人と推計されていますが、結婚・出産・子育ての希望をかなえる政策や、新たな人の流れづくりなどに積極的に取り組むことで人口を維持すると共に、観光振興施策等の取組、リニア開業や飯田の魅力発信により交流人口を2045年には定住人口の2倍まで押し上げるという観点から、30年後を見据えて12年後の人口ビジョンを掲げています。前期、中期、後期の4年毎に策定する基本計画では、その実現を目指しています。（今回は中期計画の策定ですので人口ビジョンは見直しません。） ・コロナ禍の収束とリニアの開業で増加が見込まれる外国人旅行者を大切にもてなし、外国人の方に受け入れられる地域を目指すことは、交流だけでなく、定住の観点においても重要と捉えています。「英語のまち・飯田」のご提案につきましては、基本目標3の「学校教育」だけでなく、目標1の「観光」、目標2の「人の流れ」、目標4の「社会教育」、目標10の「多文化共生」など横断的に関わる内容であり、それぞれの効果が結びつくことで実現が目指せるものと考えます。基本目標ごとに毎年検討する具体的な取組（戦略）の中で参考とさせていただきます。

パブリックコメントでお寄せいただいたご意見	市の考え方
<p>【指摘項目】 趣旨 (1P)</p> <p>1 1. 地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進 (11P)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新環境文化都市を目指す都市像ならば、ゼロカーボンシティは必須条件です。国県が示している 2050 年ゼロカーボン達成するか、観光文化都市・環境モデル都市としてさらなる高い目標を立てて、飯田から日本を引っ張る意気込みがあるべきです。そのことを趣旨に記載してください。 ・中期目標と戦略(案)、基本目標 11 の施略では、20?0 年ゼロカーボンシティを表明したうえで、その達成に向けて省エネによるエネルギー消費量削減、再生可能エネルギーの地域内での更なる利用増加、畜エネルギーによる再生可能エネルギーの効率利用、再生可能エネルギーの地域内循環による地域経済の活性化を実施してください。 ・目標指標の二酸化炭素排出量に削減割合は、ゼロカーボン達成のシナリオに沿った目標値としてください。 ・想定している取り組みについて、エネルギーの一域産では太陽光に水力を含め、域消の取り組みが記載されていないので記載してください。 ・「環境と経済をテーマにしたプラットフォーム」は具体的なイメージがつかめません。 <p>【指摘項目】 基本目標</p> <p>1. 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる (P19,20) について</p> <p>2. 飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる (P21) 想定している主な取組</p> <p>リニア長野県駅を中心とした飯田市北部地域の観光・産業を切り口とした地域振興に今から取り組まれていくことを盛り込むべきではないか (別紙参照)</p>	<p>市の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本目標 1 1 の戦略の考え方において、明確に「ゼロカーボンシティ」を目指すとしています。ゼロカーボンシティを、我慢や忍耐を想起させるものではなく、むしろ成長や持続可能性を見出す道しるべと捉えることこそが重要であると考えて「目指す」としています。 ・いいだ未来デザイン 2028 中期目標を具現化する環境プラン第 5 次改訂版においては、「ゴール 5 気候変動への対策に取り組もう」において、「2050 年二酸化炭素実質排出ゼロを目指す」旨を記述し、同時に策定予定である飯田市地球温暖化対策実行計画 (第 3 次環境モデル都市行動計画) においてもその目標を明示しています。今回の計画ではグリーンリカバリーという考え方に着目し、環境をテコに経済振興を図っていくことを重視しています。また、ゼロカーボンシティの表明については改めて別途検討しています。 ・目標とする指標における「二酸化炭素排出量削減割合」は、ゼロカーボンシティ実現に向けた指標としていきます。 ・想定している主な取組における「リニア駅周辺におけるモデルエリアの構築」は、エネルギーの域産域消を進めるモデルを構築し全市に普及させていく意図を持った取組です。 ・地域内で創出される再生可能エネルギーの例示に水力を加筆します。 ・「環境と経済をテーマにしたプラットフォーム」については、市民、事業者、専門的知見を有する有識者、金融機関等が参加した情報意見交換を行う多様な場づくりを行い、そうした中から実効性の高い取組を創造・発信していくことを想定しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・リニア開業により当市の玄関口となる飯田市北部地域は数多くの歴史的、文化的資源が点在しています。また、今年度末に座光寺スマートインターチェンジが開通することで、リニア開業に先んじて当市への流入口として北部地域の重要性が増しています。 ・そこで、基本目標 1 の観光振興の戦略に、遠山郷、天龍峡と並べて中間駅周辺地区を記載することで、その位置づけを明示します。 ・その上で、毎年戦略計画の中で、まずは観光・産業ビジョンの策定を進めていきたいと思っております。

パブリックコメントでお寄せいただいたご意見	市の考え方
<p>(以下、別紙の内容)</p> <p>飯田市北部地域（橋北・上郷・座光寺）は、飯田市中心市街地の北側に位置し、比較的都市機能が整備され生活環境には恵まれた地域です。加えて、豊かな自然環境と個性的な伝統文化と産業が根付いています。</p> <p>このような地勢や環境を踏まえ、北部地域連絡協議会では環境文化都市の北の玄関口として、「北部地域エコミュージアムの形成とエコ&グリーンツーリズム」の推進により、都市と農村との交流・連携、環境と調和に積極的に取り組むこととし、「スマートインター整備に向けた地域活性化ビジョン」を2010年（平成22年）1月に市長へ提言しました。</p> <p>このスマートインターチェンジについては、国土交通大臣から中央自動車道への連結許可が2016年（平成28年）6月に下り、2018（平成30）年度末、道路改良工事が着工され、いよいよ2020（令和2）年度末の供用開始に向けて工事が進められている状況です。本協議会で取り組みを進めてきた課題がいよいよ具体化することとなります。</p> <p>リニア中央新幹線本線については、2018（平成30）年度より用地取得に向けた協議が始められており、用地測量、物件調査が概ね終了し個別協議が進められています。</p> <p>一方、長野県においては、関連する道路整備（国道153号北改良、座光寺上郷道路、県道市場桜町線（(都)東新町座光寺線））について事業化が図られ、また、飯田市においても「リニア駅周辺整備基本設計」を策定し、具体的な設計に向けた検討が進められています。</p> <p>このように、2027年（令和9年）の開業を目指すリニア中央新幹線長野県駅（仮称）は、長野県はもちろんのこと飯田市の玄関口として、当地域の魅力を日本へそして世界へ発信する絶好の環境が整備されます。</p> <p>しかしながら、駅が整備されたとしても、この駅を活用されるだけの魅力が無ければ単なる通過駅となってしまいます。</p> <p>南信州広域連合においては、第4次広域計画の後期計画において「アリーナ機能を中心とする複合施設」について、単体ではなくリニア駅周辺のエス・バードや飯田文化会館と連携した地域づくりの構想（リニア駅を核とした地域ビジョン）を描くとされています。</p> <p>ただし、広域連合の構想づくりは下伊那北部町村を含めた広域的なビジョンであり、リニア駅を有する飯田市としては、この飯田市北部地域の魅力を最大限に活かした魅力あるまちづくりの整備が肝要と考えます。</p>	

パブリックコメントでお寄せいただいたご意見	市の考え方
<p>これまで飯田市では、3つの拠点整備（遠山・天龍峡・まちなか）を鋭意進められてきました。飯田市北部三地域には、数多くの歴史的・文化的資産が散在しており、社会資本整備が進むことで企業立地等の将来性も見込まれます。それらを活かし、広く全国にアピールしていくことが、リニアを活かしたまちづくりにつながるものと考えています。</p> <p>今後はリニア開業を見据えリニア長野県駅を中心とした北部地域の観光や産業振興のためのビジョン策定とその実行に取り組まれることを切に要望するものです。</p>	